

令和2年度 精神看護学実習 実習評価表

目的：精神に障害を持つ患者の看護を通して、他者理解・自己理解を深め、精神看護の意義を学ぶ。

目標：精神に障害を持つ人の持てる力を活用して、その人らしい生活を支える看護ができる。

学籍番号（ ） 氏名（ ）

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価	評価基準			ポイント
				A (15点 1)のみ10点)	B (9点 1)のみ6点)	C (6点 1)のみ4点)	
1. 精神看護学実習の目的に照らし合わせ、自己の学習課題に沿って事前学習ができる。	1) 実習目的に照らし合わせ精神看護学実習に必要な事前学習を行なって臨んでいる。	ビジョンシート ポートフォリオ 対話		実習で活用することをイメージして精神看護に必要な学習ができている。	精神看護に必要な学習をしているが、実習で活用できる内容としては不十分である。	精神看護に必要な学習ができていない。	精神症状と精神疾患 精神科における治療 人間の心、危機理論、こころの健康 精神科での援助におけるアセスメントの視点 精神看護学実習 DVD
2. 患者の状態に応じた看護を実践する。	2) 患者に関心を持ち、関わることができ、訴えと対応を学んでいる。	観察 対話 ポートフォリオ インパクトシート		一日の様々な場面での患者の状況を観察し、支援の意味を考えながら患者への対応を学んでいる。	一日の様々な場面での患者の状況を観察しているが、支援の意味を考えていない。	患者の状況を観察できておらず、患者への対応を学んでいない。	精神症状の観察 一日のスケジュール 作業療法、レクリエーション
	3) 疾患による症状、患者の言動が患者の生活にどのように影響しているか、生活のしづらさを考え、日常生活援助ができる。	分析シート 看護計画 成長報告書		患者のペースに合わせ関わりを持つことができ、患者の疾患、症状が生活にどのような影響があるかを考え、アセスメントをし、生活の課題を見出し生活を支える看護を実施している。	患者のペースに合わせ関わりを持つことはでき、生活への影響を考えアセスメントしているが、患者の生活を支える看護になっていない。	患者の生活をアセスメントしておらず、一方的な関わりになっている。	日常生活行動の援助 薬物療法における看護 (副作用、身体合併症) 精神症状に対する看護 治療的環境
	4) 健康な力、持てる力を引き出し支える看護の大切さを学んでいる。			患者の今までの経過から生活のしづらさだけでなく、健康な力・持てる力を支える看護を実施し、その力が心の回復を支えていると学んでいる。	健康な力、持てる力に気付くことはできているが、その力が心の回復を支えていることを学んでいない。	健康な力、持てる力に気付くことができいていないため、心の回復に何が支えとなっているか学んでいない。	ストレンクス、レジリエンス（健康な力、持てる力） 多職種連携、地域生活支援 社会資源（デイケア、訪問看護） 障害者総合支援法、就労支援
	5) 精神症状、身体症状を考え、危険を回避し、患者と周囲の安全を守る方法を学んでいる。			精神症状や状況から考える危険を回避し、法的根拠、倫理面も理解し、患者と周囲の安全を守る看護を学んでいる。	危険に気付いているが、法的根拠、倫理面に基づいて学んでいない。	危険に気付いていない。	精神保健福祉法（入院形態など）、倫理安全対策、行動制限（保護室） 緊急事態（自殺、暴力、離院）の対処 抗精神病薬の副作用、転倒リスク
3. 患者との関わりの中で自己のコミュニケーションを振り返り自己理解を深め、患者の反応を元に他者理解を深める。	6) 患者一看護師関係を理解するための手がかりをつかむことができる。	観察 対話 プロセスレコード ポートフォリオ 成長報告書		プロセスレコードを活用し、他者との関わりの中で起きている反応を手掛かりにコミュニケーションにおける自分の傾向や自分が相手に与える影響に気付いている。	自分の傾向を意識することはできているが、関わりの中で起きている反応に気付いていない。	プロセスレコードは活用しているが、自分の傾向、相手に与える影響に気付いていない。	コミュニケーション技法 共感、傾聴 自立、自己決定
	7) 患者に関心を持ち、関わり場面から患者の言動の意味を考え、対応を学んでいる。			患者との関わりから患者の言動にどのような思いがあるのか考え、関わりを行っている。	患者の思いについて考えることはできているが、関わりに活かされていない。	患者の思いについて考えることができていない。	

尾道市医師会看護専門学校

実習指導者 印

担当教員 印

点/100点 優 良 可 不可